

- 1 日 時 令和元年7月16日(火) 13:30~15:30
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、本杉 省三 委員、㊦西田 奈保子 委員、門田 敦嗣 委員、
中村 芳朗 委員、三瓶 章 委員、後藤 忠久 委員、吉田 秀政 委員、大関 宏之 委員、
竹田 有理 委員、齋藤 美佐 委員、山崎 由美 委員、㊦小林 静香 委員
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ① 第2回委員会の振り返りについて
 - ② 施設コンセプト(案)等について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換
- 6 委員の主な発言
 - 委 員 大ホールや展示ホールなどが上層階への設置を想定されているが、荷物の搬出入に関する利便性・メンテナンス性・コスト等について懸念を持っている。
 - 事務局 施設の設置階については準備組合と調整中である。大型エレベーターを設置することによりコストは大きくなるが、商業機能が1階配置になることによりまちの賑わい創出につながる側面もあると考えている。再開発事業全体としてのバランスや、市の負担額等を踏まえると、現時点においては上層階への配置が有力と考えている。
 - 委 員 ホールの下に会議室等を配置すると、音漏れ等の影響が心配されるので考慮していただきたい。
 - 委 員 本施設は民間による運営を想定されていることから稼働率を高くする必要があるが、市としてはどの程度の稼働率・採算性を予測しているのか。
 - 事務局 施設の利用日数等については、市の過去実績や他市の開催状況等を参考として、各案において想定したところである。
 - 委 員 共用空間が、大ホールや展示ホール等に人を導く主要な動線・スペースとなる。共用空間がアクセスしやすい場所にあり、上層階に導いていくような工夫が必要だと思う。また、路面とつながる商業機能が、施設全体の流れにも影響するので重要と考える。
 - 委員長 共用空間について広場のような機能を含めて検討してほしい、というご意見かと思う。
 - 事務局 共用空間については、商業・ホテルと公共施設との連携などを十分に考慮して検討を行っていく。駅前立地を活かした計画として、構造検討も含めて進めているところである。
 - 委 員 行政催事についても集約する予定とのことだが具体の計画はあるか？
 - 事務局 市民会館と公会堂の後継機能の位置づけであり、市民の一般会議、総会等での使用を想

定している。なお、具体的な行政催事の開催については未定だが、全市的な市のイベント開催などが想定される。

○委員 人口減少について、どの程度考慮した資料となっているのか？

○事務局 本市の人口ビジョン・総合戦略においては、例えば2025年の人口を26.4万人と推計しているが、子育て支援や産業振興、交流人口拡大など様々な施策により、27.2万人としたいと考えている。福島駅前交流・集客拠点施設もそういった施策の一環として行う事業でもある。この考え方が、具体的な数値として資料に反映されていないが、この観点をもった計画づくりをしていきたい。

○委員 市民団体・サークル等による会合や創造・創作を含む文化活動、生涯学習活動等については、施設のどの機能を対象としているのか？

○事務局 例えば、大ホールでの発表や講演、展示ホールでの作品展示、会議室や練習室での日常的な練習、ホワイエでのロビーコンサート開催など、施設の全ての機能を対象としており、施設構成は各案で異なる部分があるものの、A～C案全てにおいて市民の方に利用していただきたいと考えている。

○委員 各諸室のドアを開けて初めて利用できるのではなく、市民が自由に利用できる中間的なスペースがあるとより利用しやすいと思う。今後の計画案においても、そのような市民利用スペースも示していただきたい。

○委員 イニシャルコストとランニングコストの考え方について教えてほしい。また、修繕費は、何年間で想定しているのか。共用部分のコストが多く発生する場合は、非収益部分をどのように稼働させて収入に結び付けていくのか、工夫が必要と考える。

○事務局 施設整備費は他市の整備事例を参考に仮事業費として試算している。また、P29の施設整備費は、会議室やホワイエ等の共用部の整備費用を加えたものである。修繕費については、施設整備費の約60%を65年間で平準化して算出した。

○委員 駅前に賑わいを創出するという役割を考慮すれば、稼働率が低い施設となることは避けなければならないので、1階部分は稼働率の高い施設機能とすることが重要となる。駅前通りの現状は、通りの北側の1階はほぼ居酒屋となっており、昼間は店が開いていない状況である。駅前の賑わいを創出するという役割を重視し、技術的な検討も含め、創意工夫をお願いします。

また、学術会議やイベント等の想定開催件数について、何を算定根拠としたのか教えてほしい。

○事務局 学術会議やイベント等の開催については、市内の開催実績及び近隣他市での開催実績をもとに想定している。また、解体を含め工事期間中の賑わい創出方法も考慮した計画としたい。商工会議所や商店街の方々とも協議しながら検討していきたい。

○委員 ホールの規模について、稼働率だけでなく、各会場の実績値（例えば1,500席規模の施設で1,000席程度の利用しかないなど）を把握する必要がある。総合的に、どのくらいの規模がよいのかを考える必要があると思う。また、ホールは鑑賞用として利用するだけでなく様々な役割を果たせると感じる。幅広いニーズを掘り起こしてほしい。

○委員 駅前通りの北側が飲食店ばかりだとのことがあった。商店街としても物販店にも貸したいが、なかなか借り手がないのが現状でもあり、難しい問題である。新施設の規模については、市内には他にもホールがあるので、例えば500人規模のイベントは他施設で

開催すればよいという考え方もできる。集客効果や経済波及効果を含めてみると、B案が妥当ではないかと考える。

○委員 過去の建築物で県立物産陳列館（後の旧県立図書館）というものが存在し、チャレンジショップのような機能があったとのことである。今後予定される解体・工事期間中はもとよりその後においても、このようなチャレンジショップのような取組を、市や商店街が中心となって実施できると良いのではないかと考える。

○委員 福島県文化センターは、東日本大震災を経て大規模修繕を行い、比較的利用率も高い施設である。今後、建替えを検討する可能性もあると思うので、市と県で情報共有を図ってほしい。

また、規模の設定は非常に難しい判断となる。人口減少だから小規模に整備すればよいという単純な話でもない。市の将来を見据え、市民のみを利用対象者と捉えるのではなく、広域的な視点を取り入れるという考えも理解できる。

しかし、大きな施設は建設コストが大きいだけでなく、ランニングなど継続的なコスト高にもつながるので慎重に検討すべき。高層階へのホール設置は、搬出入の手間によって他施設に需要が流れてしまわないように、搬入経路やトラックの待機場等を十分に留意する必要がある。それができなければ意味がない。

一方で、商業機能は、形態が変化しやすい業種であるため、継続性を考慮したテナント選定が必要である。賑わいがまち全体に伝わっていくような規模設定・施設としてほしい。

○委員 今回、利用者数や稼働率等を量的に表そうとしたことは評価できる。今後は、人口の何%の市民利用がなされるとか、何%の稼働率を目指すなど、さらなる数値目標の設定が必要である。また、財政的な面での検証結果も安心材料として示していただくとよい。質的には、福島市のシンボリックな建物になると思うが、ステークホルダーとの関係性については、計画中、整備後ともに、よく議論してほしい。B案がよいと思ったが、中途半端な施設ではなく価値を高めることが必要であり、大胆な決断が必要な場合もあるのだと思う。

○委員 B案がよいと思う。ターゲットを全部取り込むと、B案しか選択肢はないのだろう。将来的にこの施設を使い続けられるかという点について、もっと案を出してほしい。例えば、低層階の商業フロアの使われ方や、何をもって賑わっていると定義するのかなども考える必要がある。仙台でも施設全館が利用されている日は少ないが、空き施設を埋めるためにはジャンル異なるイベントを開催することなどが有効である。MICEに関わる立場としては、第2候補は、人が呼べる施設であるC案がよいと思った。

○委員 今までは規模の大きい施設に価値があったが、今後、実績としてどのくらい利用があったのか、人口減少、文化的グレードでみてみると、規模が大きいから価値が高くなるとは限らない。施設規模と設備等については、十分な検討が必要ではないかと考える。

○委員 福島市は、山や温泉など、自然に触れやすい環境を有している。駅西口には観光案内所があるが、駅東口におけるPRスペースについても検討してほしい。

なお、第1回策定委員会で提示された本市の強みの中で、東日本大震災被災地であることに触れている箇所がある。これはあくまでも、平成30年度に設置された福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会で議論された内容の報告であるので、その点についてコメントさせていただく。

○委員長 多くの人が知っているということで、福島は有名になってしまったものであるが、この策定委員会では、表現に十分に気を付けて検討を進めていくこととしたい。

○委員 コンセプトを踏まえるとB案が合致していると思うが、コストを十分に踏まえ結論を導

く必要がある。本施設を整備することによって、各コンセプトに対して、どのように貢献できるのか、定量面・定性面の両観点から整理するべき。例えば、これまでの再編対象となる施設機能は確保し、これまでどおり市民利用に応えられる上で、より高度な市民利用にも応えられるとすると説得力が増すのではないか。また、様々な関係者へのこれまでのヒアリング結果をどのように計画に反映させていくかについては検討が必要。

- 委員 福島市の地理的な位置が強みである反面、弱みでもあることを認識して、仙台・郡山・首都圏から呼び込むための検討が必要。コンベンションビューローなどのソフトの仕組みも含めて検討してほしい。なお、大ホール1, 500席でイベント主催者の採算がとれるのか、逆に、不足しないかを十分検討してほしい。
- 委員 B案がよいかと思ったが、中途半端な施設にならないかは懸念しているところである。駅前立地を生かすために、国際交流やインバウンドにも期待したい。また、福島の色となるように、イベント等を誘致してほしい。
- 委員 本施設を整備に合わせた道路整備の計画等が予定されているのか次回教えてほしい。
- 委員 一般的に、検討段階等での議論では規模が大きめな計画になることが多いため、コストを十分に考慮した結論が必要であり、必ずしも何席必要だといった結論でなくてもよいのではないか。稼働率が上がれば上がるほど、人手が必要となり、維持管理費も高くなる。むしろ、どのような活動をどのくらいの費用をかけて行っていくかが重要になる。市民の文化的な活動を活発化するためには、貸館だけに頼らない施設側からの何かしらのアクションが必要。規模については、慎重な検討をしたほうがよい。また、再開発全体としてうまくいくことが大切である。
- 委員長 B案を基本に検討することでよいが、疑問や課題に関するご意見もあった。共用部分などについて市民が日常的に利用できるようにということなので、可能性を検討してほしい。また、大ホールをフレキシブルに縮小して使うなど、多様な市民利用ができるような施設づくりとすることも考えられる。整備してからが始まりなので、市民や地元経済界や行政も含めて、本施設をどう活かしていくか、どう努力して実現していくかを含めて、基本計画としてまとめてほしい。公共施設として1階部分を活用しないのであれば、その分の費用を他に充てることができると思われるのでうまく活かした計画にしてほしい。
- 事務局 次回は10/4（金）開催予定。なお、今後開催する市民懇談会は、現時点までの市の考え方を提示し、自由に意見をいただく予定である。